

No.	学部・研究科等	授業番号	授業科目	学期	担当教員	科目ナンバリング	授業方針・テーマ	習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標
1	人文科学研究科	O0013	都市社会学研究Ⅰ	前期	山下 祐介	—	社会学および関連分野の専門書等を通読し、社会学的視座の獲得と作法を身につける。 予定しているテーマは、都市と生政治。	ゼミを通じて、社会学における都市・農村・地域の研究視角を習得する。社会学理論のテキストを読みこなし、現代の具体的な事象を読み解ける能力を身につける。
2	人文科学研究科	O0014	都市社会学特論Ⅰ	前期	山下 祐介	—	社会学および関連分野の専門書等を通読し、社会学的視座の獲得と作法を身につける。 予定しているテーマは、都市と生政治。	ゼミを通じて、社会学における都市・農村・地域の研究視角を習得する。社会学理論のテキストを読みこなし、現代の具体的な事象を読み解ける能力を身につける。
3	人文科学研究科	O0015	都市社会学研究Ⅱ	後期	山下 祐介	—	社会学および関連分野の専門書等を通読し、社会学的視座の獲得と作法を身につける。 予定しているテーマは、都市と生政治。	授業を通じて、社会学における都市・農村・地域の専門的な研究視角をスキルアップする。社会学理論のテキストを深く読みこなし、現代の具体的な事象を広く読み解ける能力を身につける。
4	人文科学研究科	O0016	都市社会学特論Ⅱ	後期	山下 祐介	—	社会学および関連分野の専門書等を通読し、社会学的視座の獲得と作法を身につける。 予定しているテーマは、都市と生政治。	授業を通じて、社会学における都市・農村・地域の専門的な研究視角をスキルアップする。社会学理論のテキストを深く読みこなし、現代の具体的な事象を広く読み解ける能力を身につける。
5	人文科学研究科	O2436	考古学特論第一	後期	奥野 淳一＊	—	第四紀における地球環境の変動とその痕跡を多角的に理解し、人類活動との関連を地球システム科学的視点から考察する。	・第四紀の地球環境変動(氷期・間氷期、気候変動、海水準変化など)について、地球システム科学的知見に基づいた基礎的理解を習得する。 ・大気、海洋、氷床、固体地球などの地球システムの相互作用に着目し、第四紀における環境変動の物理的メカニズムを理解する。 ・人類の進化・文化の形成と第四紀環境変動との関連を考察する力を養い、自然環境と人間活動の相互作用を地球システム学的視点から理解する。
6	人文科学研究科	O2437	考古学研究第一	後期	奥野 淳一＊	—	第四紀における地球環境の変動とその痕跡を多角的に理解し、人類活動との関連を地球システム科学的視点から考察する。	・第四紀の地球環境変動(氷期・間氷期、気候変動、海水準変化など)について、地球システム科学的知見に基づいた基礎的理解を習得する。 ・大気、海洋、氷床、固体地球などの地球システムの相互作用に着目し、第四紀における環境変動の物理的メカニズムを理解する。 ・人類の進化・文化の形成と第四紀環境変動との関連を考察する力を養い、自然環境と人間活動の相互作用を地球システム学的視点から理解する。
7	経営学研究科	P0008	財務戦略論	前期	松田 千恵子	—	今日の経営環境においては、事業の意思決定はファイナンスを無視して行い得るものではなく、また財務的な意思決定には事業状況への深い洞察が益々必要とされている。経営戦略及びコーポレートファイナンス双方の理論を有機的に結びつけ、統合された知識に基づき、実践的な経営判断を行っていくことは、これからの経営者にとって必須の能力である。 この授業では、こうした問題意識に基づき、経営人材として必要な財務戦略、資本市場の動向とその背景の理解に主眼におき、実践的なコーポレートファイナンスの活用と、その経営戦略との関係性を考える。 具体的には、まず財務分析等の基礎を確認したうえで、経営の意思決定において必須のコーポレートファイナンスの核となる考え方を俯瞰する。それをベースに、企業の財務戦略の主要な論点と近年増えつつあるM&Aや投資家対応に関する主要な論点につき、実践的なケースを通じて考察を深める。	企業経営と財務の結びつきを理解したうえで、以下の知識・能力を身に付けることを目的とする。①企業の実績及び企業価値を数字で具体的に理解できるようになる。②具体的な事例で資本コストの推定や企業価値の推定ができるようになる。③実際の企業の経営行動を企業価値の観点から理解・説明することができるようになる。
8	経営学研究科	P0009	経営戦略演習	後期	松田 千恵子	—	本演習は、ケースメソッドによって進められる。企業の具体的な事例を通じて、企業経営と資本市場との間にある諸問題を経営者としての立場から考え、経営人材として必要な知見を身に付ける。参加者間で討議をしながら理解を深めていく。	ストラテジー、ファイナンス、ガバナンスの知識を企業の実務、経営において活用できるようになることを目的とする。特にM&Aなどの事例においては、企業戦略、事業戦略、企業価値評価、財務戦略、コーポレートガバナンスなど企業にとって重要なあらゆる問題が関係してくるため、企業経営における総合力を試すことができる。そうした事例を多面的な視点から理解できるようになる。
9	経営学研究科	P0087	経営学特別講義(サステナブル経営と資本市場Ⅰ)	夏季集中	北川 哲雄＊、 松田 千恵子	—	本講座は今日の資本市場の中心課題のうち3点につき焦点をあてる。第一は今日勃興しているESG投資の本質を理解することである。第二は第一の動きに対応する形で企業に求められる情報開示の動向についてである。開示基準設定の動きは急速であるがその点についても言及する。第三は機関投資家による評価と企業へのエンゲージメントの実態を理解することである。いずれのテーマも第一線の実務家が講師陣に加わって現在の資本市場における最先端の動向を理解することになる。	ESGアナリスト、機関投資家側のガバナンス・オフィサー、(企業側)サステナブル・オフィサーになるための基礎的な知識を得るとともに当該分野での研究・論文作成のヒントを得ることができる。。
10	経営学研究科	P0100	コーポレートガバナンス	前期	北川 哲雄＊	—	2014年に発表された日本版スチュワードシップ・コードと2015年に発表されコーポレートガバナンス・コード(いわゆるダブルコード)によって日本企業のコーポレートガバナンスは大きく変容を遂げた。その後2度の改訂を経て今日に至っている。ダブルコードの影響の下、東京証券取引所や経済産業省の各種ガイドラインも活発に公表された。これら一連のソフトローが企業行動に与えた影響も計り知れないものがある。功罪半ばといった評価が妥当ではないか。本講義においてはダブルコード制定の源流となった英国のコーポレートガバナンスの変遷を辿るとともに独特の変化を遂げつつある日本のガバナンスシステムの功罪を描出してみたいと思う。	コーポレートガバナンスシステムの内外の状況を把握するとともに、システム設計の目標が如何にあるべきかを探ることにより、今後のコーポレートガバナンス・コードの特性ついて受講生各人が鋭い問題意識を持てるようにすることを目的とする。
11	経営学研究科	P0114	経営学特別講義(サステナブル経営と資本市場Ⅲ)	後期	北川 哲雄＊、 北川 哲雄＊、 松田 千恵子	—	「サステナブル経営と資本市場Ⅲ」は「Ⅰ」が夏季集中でESG投資や機関投資家のエンゲージメントの最前線の状況を捉え、「Ⅱ」が企業サイドのインベスター(投資家)とのコミュニケーションの状況に焦点を当てるのに対して本講座(Ⅲ)は「企業のサステナビリティ活動」に焦点を当てる。	前半はサステナブルファイナンスのエッセンスを基本書を手掛かりに理解するとともに、後半においては現実の企業のサステナビリティ活動、情報開示および資本市場における評価について検討します。
12	経営学研究科	P0701	資産運用論	前期	加藤 康之＊	—	資産運用に関する基礎的な理論とその実務への応用を習得する。特に実務への応用に重点を置く。具体的な実務テーマを設定した上で、その背景にある理論と実証分析方法を学ぶ。対象の分野は資産配分、ファクターモデル、スマートベータ、債券ポートフォリオ、ESG投資、パフォーマンス評価、リスク管理、イベントスタディなどを予定している。講義に加え、実際のデータを使った課題演習を毎回課す。	資産運用に関する基礎理論、データ分析手法が習得できる。目標は、実務的な資産運用テーマに対して、自分で理論やデータや分析手法を選択し、結果を出すことができる能力を身に着けること。

No.	学部・研究科等	授業番号	授業科目	学期	担当教員	科目ナンバリング	授業方針・テーマ	習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標
13	経営学研究科	P0703	実証ファイナンス	前期	内山 朋規	—	理論と実証は両輪である。「数式がこう言っているのだから価格はそのように動く」ということはありえず、現実の金融市場を知る必要がある。本講義の目的は、アセットプライシングの理論にもとづき、実証的に金融市場への理解を深めることである。実証分析の方法論も習得する。前半の講義では実証分析の統計学的手法の解説とMATLABを使った演習を行う。その後、株式、金利、通貨、デリバティブといった各アセットクラスや、ファンドパフォーマンス、機械学習、ESG投資を対象に、主として実証論文を学習する。背景となるアセットプライシングの理論についても適宜扱う。受講者は、教員と事前相談のうえで定めた論文を簡潔にまとめて発表することも行う(1人あたり1,2回程度を予定。発表時間は1人あたり30分以内(短くてもよい))。	投資理論の実践に役立つ、理論をもとにした実証研究に関する知識や実証分析スキルを獲得できる。
14	経営学研究科	P0709	金融リスク管理概論	前期	吉羽 要直	—	本講義では、金融機関でのリスク管理実務全般を視野に入れ、金融リスクとは何か、どのような枠組みでリスク管理が行われているのか、その背景にある考え方などについて整理する。特にバーゼル銀行監督委員会による国際合意など、最近の国際的な金融監督規制の変化を踏まえ、従来の定量的なリスク管理手法に加え、金融機関のリスク管理実務に及ぼしている影響について議論する。	多様化する金融リスクを理解し、定量的なリスク管理を中心にリスク管理実務に応用可能な考え方を身につけることを目指す。変化する金融規制を踏まえ個別金融機関でのリスク管理に関する理解を深めるとともに、金融システム全体でのリスク管理の議論についての関心も深める。講義では、各種論点についての議論を通じて問題意識を深めることも目指す。
15	理学研究科	R0111	物性物理学 II	後期	松田 達磨	—	物性物理学I で学んだバンド理論等を基礎に、磁性、電気伝導、超伝導など、固体中の電子が主役となる特性の理解をめざす。特定の物質の特性を理解するというより、現象に対して物理学としての普般的理解をめざすことを重視する。また、実験的に得られる物理量と理論的解釈に関する実践的理解も意識した内容。	多数の粒子の集合としての物質が示す様々な振舞いを、これまでに学んできた力学、電磁気学から量子力学・統計力学にいたる内容を適用することにより、微視的な立場から理解することを目的としている。更に、物性物理学の研究を進めるにあたり、通常の学部教育で欠けている知識、研究や応用面での実戦的な理解を補うこともこの講義の目的である。☒(総合的問題思考力)(論理的思考力)
16	理学研究科	R0222	化学特論Ⅱ(宇宙地球化学)	後期	大浦 泰嗣、竹川 暢之、茂木 信宏	—	我々を取り巻く宇宙・地球の物質形成と循環を支配する物理・化学過程について講義を行う。前半は地球の大気・水圏を中心に扱う。後半は天然での核反応に関連する宇宙地球化学について解説する。	無機化学、分析化学、放射化学、物理化学などの基礎知識に立脚して、宇宙・地球における重要な化学過程を理解することを目標とする。
17	理学研究科	R0231	化学特別講義Ⅱ(有機反応論)	夏季集中	野村 琴広	—	有機化学や配位化学に関する基礎知識を有する学生を対象に、大学院レベルの研究に不可欠な「有機金属化学を基盤とする精密有機合成化学」に関する基礎的かつ応用に関する内容を、最近のトピックスも含めて講述する。2025年度は集中講義で開催。	本講義を通じて、現代の有機合成化学に必要な基礎事項(分子触媒による環境低負荷型の精密合成手法やその基本概念、基礎的な反応機構)の習得を目的としている。さらに有機高機能材料の精密合成に必要な方法論を(最近のトピックスなどの事例概説を通じて)学習することで、新しい化合物の合成や合成手法・プロセス開発に取り組む際の正確な基礎知識、基本反応を応用展開する能力の習得を目的としている。
18	理学研究科	R0235	化学特別セミナーI	前期	廣瀬 靖、岡 大地	—	博士前期課程を対象とする。化学の最先端テーマについて、外国語文献の購読、発表などを行う。特に、化学特別セミナー I では、専門的テーマへの導入となる基礎学力・専門的知識を習得する。	化学専攻では、有機・無機・生体関連物質等から海洋、大気環境、宇宙に関連する物質にまで広がる幅広い対象について、実験的・理論的研究が進められている。本授業では、博士前期課程の学生が化学の最先端テーマについて、外国語文献の購読、発表などを行う。最新の化学に触れることにより、化学に関する幅広い基礎学力・専門的知識を習得する。
19	理学研究科	R0236	化学特別セミナーII	後期	廣瀬 靖、岡 大地	—	博士前期課程を対象とする。化学の最先端テーマについて、外国語文献の購読、発表などを行う。特に、化学特別セミナー II では、化学特別セミナー I に引き続き、外国語文献の購読、発表を継続することにより、化学特別セミナー I で習得した基礎学力・専門的知識をさらに深める。	化学専攻では、有機・無機・生体関連物質等から海洋、大気環境、宇宙に関連する物質にまで広がる幅広い対象について、実験的・理論的研究が進められている。本授業では、博士前期課程の学生が化学の最先端テーマについて、外国語文献の購読、発表などを行う。最新の化学に触れることにより、化学に関する幅広い基礎学力・専門的知識を習得する。
20	理学研究科	R0719	生命科学特別講義	夏季集中	安藤 香奈絵、Diego Tavares Vasques *	—	Course Title: Introduction to Plants Systematics and Taxonomy Instructor: Diego Tavares Vasques Dates: Aug 28 & Aug 29, 2, 3, 4 &5 periods Course Objectives/Overview Evolution is an intriguing phenomenon that rules all biological events. The mechanisms controlling evolution are many in nature and can be studied under different levels of complexity. In this course, theories of evolutionary genetics (such as natural selection, adaptation, speciation, and others) will be explored in the context of the evolutionary history of plants. Together, we will explore how changes in the life cycle have influenced the selective pressure plants have been exposed to, how adaptations on nutrition and body structure have emerged through time and how the reproduction of these eukaryotic organisms has had a deep influence on population genetics.	By taking this course, you will not only learn basic key-concepts of evolution and plants diversity (important to understanding many other subfields in Biology) but also step-up your baggage knowledge, connecting it to practice experiences in this field. Keywords Plant diversity, evolution, systematics, Plant taxonomy 植物多様性、進化論、系統分類学、植物分類学
21	理学研究科	R0720	生命科学特別講義	夏季集中	安藤 香奈絵、Diego Tavares Vasques *	—	Course Title: Introduction to Plants Systematics and Taxonomy Instructor: Diego Tavares Vasques Dates: Aug 28 & Aug 29, 2, 3, 4 &5 periods Course Objectives/Overview Evolution is an intriguing phenomenon that rules all biological events. The mechanisms controlling evolution are many in nature and can be studied under different levels of complexity. In this course, theories of evolutionary genetics (such as natural selection, adaptation, speciation, and others) will be explored in the context of the evolutionary history of plants. Together, we will explore how changes in the life cycle have influenced the selective pressure plants have been exposed to, how adaptations on nutrition and body structure have emerged through time and how the reproduction of these eukaryotic organisms has had a deep influence on population genetics.	By taking this course, you will not only learn basic key-concepts of evolution and plants diversity (important to understanding many other subfields in Biology) but also step-up your baggage knowledge, connecting it to practice experiences in this field. Keywords Plant diversity, evolution, systematics, Plant taxonomy 植物多様性、進化論、系統分類学、植物分類学
22	理学研究科	R0753	生態学特論	前期	鈴木 準一郎	—	現代の生態学に関する専門性が高い研究を例としてとりあげ、それを理解し、応用させる能力を養うことを目的とする。	受講者は、感染症、生物多様性、気候変動や都市問題などを生態学の観点から解析した研究を学ぶとともに、関連の研究論文のレビューとその発表および相互評価を行う。これらを通じて、応用的な課題に対する生態学のアプローチ方法の基礎を理解する。

No.	学部・研究科等	授業番号	授業科目	学期	担当教員	科目ナンバリング	授業方針・テーマ	習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標
23	理学研究科	R0754	生態学特論	前期	鈴木 準一郎	—	現代の生態学に関する専門性が高い研究を例としてとりあげ、それを理解し、応用させる能力を養うことを目的とする。	受講者は、感染症、生物多様性、気候変動や都市問題などを生態学の観点から解析した研究を学ぶとともに、関連の研究論文のレビューとその発表および相互評価を行う。これらを通じて、応用的な課題に対する生態学のアプローチ方法の基礎を理解する。
24	理学研究科	R0757	系統分類学特論	後期	江口 克之、高山 浩司	—	植物および動物の多様性と系統進化についての最新の研究について、文献の輪読や発表を通じて理解する。	研究者がどのような手段、情報に基づき系統と進化の体系、あるいは進化過程や要因を解明するのか、その系統学的、進化学的思考プロセスを理解することが本講義の目標である。
25	理学研究科	R0758	系統分類学特論	後期	江口 克之、高山 浩司	—	植物および動物の多様性と系統進化についての最新の研究について、文献の輪読や発表を通じて理解する。	研究者がどのような手段、情報に基づき系統と進化の体系、あるいは進化過程や要因を解明するのか、その系統学的、進化学的思考プロセスを理解することが本講義の目標である。
26	都市環境科学研究科	S0096	気候学特論II	前期	飯島 慈裕、高橋 洋	—	[飯島慈裕]世界や地域の気候環境に関する英語での講義を行うと共に、受講生各自が興味を持つ研究内容に関して文献紹介と共に、英語で紹介することを通して、気候学・気象学の研究能力を高める。気象観測に関する実習も行う。 [高橋洋]気候システム(地球環境システム)について英語で専門的に講義をする。 文献紹介にあたっては、担当者は前週までに紹介論文を担当教員と受講者全員に知らせ、当日にはA3(必要ならば両面印刷)で作成したレジュメを配布する。受講者は、当日までに論文の要旨・本文を読んでおき、紹介者に必ず質問をすること。以上を通して先端的な研究能力を涵養する。 [Iijima Yoshihiro] Lectures on global and regional climatic environments. Students' presentations on their research interests and recent related article(s). [Takahashi Hiroshi] Lectures on climate (Earth environment) system. When making the presentation, the presenter is requested to inform their presentation article(s) to the professor in charge and other students by the previous lecture day. Distribute a resume in A3 size on both sides in printed form to all participants in the lecture. Other students are requested to read the abstract and contents of the introduced paper(s), ask questions, and make comments to the presenter. Through the above, we aim to improve the participants' advanced research skills.	気候学全般に関する最新の知識を習得する。IPCCや一般にも扱われる気象・気候の先端的な問題について、科学的に正確な理解し、解決ができるような知識を身につけることを目指す。自分の専門分野の研究動向を深く理解するとともに、その内容を他者に的確に紹介する技術を獲得する。質疑を通じて内容の理解を深化していく方策を学ぶ。紹介者には、他の受講者から出される質問等に十分答えられるよう、論文に関連した周辺事項についての十分な下調べが要求される。また、放射収支計や超音波風速計、H2O/CO2ガスアナライザ等を用いた地表面エネルギー収支などの計測を実施し、気象観測機器を研究に活用するための野外観測手法や計測原理などを習得する。 Learn the latest knowledge on a wide range of climatology in order to properly understand recent fundamental meteorological and climatological issues. Understand recent research trends and front lines in students' fields of interest, and practice how to make good presentations. The students also learn meteorological observation methods in the field.
27	都市環境科学研究科	S0097	気候学講究Ⅱ	前期	飯島 慈裕、高橋 洋	—	[飯島慈裕]世界や地域の気候環境に関する英語での講義を行うと共に、受講生各自が興味を持つ研究内容に関して文献紹介と共に、英語で紹介することを通して、気候学・気象学の研究能力を高める。気象観測に関する実習も行う。 [高橋洋]気候システム(地球環境システム)について英語で専門的に講義をする。 文献紹介にあたっては、担当者は前週までに紹介論文を担当教員と受講者全員に知らせ、当日にはA3(必要ならば両面印刷)で作成したレジュメを配布する。受講者は、当日までに論文の要旨・本文を読んでおき、紹介者に必ず質問をすること。以上を通して先端的な研究能力を涵養する。 [Iijima Yoshihiro] Lectures on global and regional climatic environments. Students' presentations on their research interests and recent related article(s). [Takahashi Hiroshi] Lectures on climate (Earth environment) system. When making the presentation, the presenter is requested to inform their presentation article(s) to the professor in charge and other students by the previous lecture day. Distribute a resume in A3 size on both sides in printed form to all participants in the lecture. Other students are requested to read the abstract and contents of the introduced paper(s), ask questions, and make comments to the presenter. Through the above, we aim to improve the participants' advanced research skills.	気候学全般に関する最新の知識を習得する。IPCCや一般にも扱われる気象・気候の先端的な問題について、科学的に正確な理解し、解決ができるような知識を身につけることを目指す。自分の専門分野の研究動向を深く理解するとともに、その内容を他者に的確に紹介する技術を獲得する。質疑を通じて内容の理解を深化していく方策を学ぶ。紹介者には、他の受講者から出される質問等に十分答えられるよう、論文に関連した周辺事項についての十分な下調べが要求される。また、放射収支計や超音波風速計、H2O/CO2ガスアナライザ等を用いた地表面エネルギー収支などの計測を実施し、気象観測機器を研究に活用するための野外観測手法や計測原理などを習得する。 Learn the latest knowledge on a wide range of climatology in order to properly understand recent fundamental meteorological and climatological issues. Understand recent research trends and front lines in students' fields of interest, and practice how to make good presentations. The students also learn meteorological observation methods in the field.
28	都市環境科学研究科	S0398	地理環境科学特論Ⅱ	夏季集中	中村 尚＊、中村 尚＊、飯島 慈裕	—	気象学・物理気候学の基礎的理解を深める集中講義を行う。数式に頼り過ぎず、現象の物理的理解を主眼とする。	① 地球大気の大気の大気の熱構造やそれを司る空気や水蒸気の熱力学特性や放射特性に関する基礎知識を習得できる。 ② 水蒸気の凝結から降水へ至る過程、雲の形成に関わる基礎知識を習得できる。 ③ 温帯低気圧や移動性高気圧の構造やそれらによる南北熱輸送の仕組みが理解できる。 ④ 大規模な大気の流れを司る基本的な力のバランスを理解し、地球の大気大循環の仕組みとそれに伴う各気候区の形成に関する基礎知識を習得できる。
29	都市環境科学研究科	S0517	エネルギーデバイス化学講究Ⅰ	前期	梶原 浩一、柳下 崇、池澤 篤憲	—	環境・エネルギーの講義の一環として エネルギーデバイス化学の特定分野の研究について講義を行う。特に、セラミックス・ガラスを中心としたエネルギー関連材料の開発とデバイス応用に関する学術基礎から応用展開までを学ぶ。	エネルギーデバイス化学の特定分野の研究についての基礎的知識から最先端の研究に至るまでを紹介し、近年の当該分野における発展を学ぶ。特に、セラミックス・ガラスを中心としたエネルギー関連材料の開発とデバイス応用に関する学術基礎に力点を置いて指導し、本分野における先導的な研究者あるいは指導者となるように専門知識を充実させる。エネルギー化学分野においては研究開発をマネージメントできる能力を養う。
30	都市環境科学研究科	S0724	地理環境科学講究Ⅱ	夏季集中	中村 尚＊、中村 尚＊、飯島 慈裕	—	気象学・物理気候学の基礎的理解を深める集中講義を行う。数式に頼り過ぎず、現象の物理的理解を主眼とする。	① 地球大気の大気の大気の熱構造やそれを司る空気や水蒸気の熱力学特性や放射特性に関する基礎知識を習得できる。 ② 水蒸気の凝結から降水へ至る過程、雲の形成に関わる基礎知識を習得できる。 ③ 温帯低気圧や移動性高気圧の構造やそれらによる南北熱輸送の仕組みが理解できる。 ④ 大規模な大気の流れを司る基本的な力のバランスを理解し、地球の大気大循環の仕組みとそれに伴う各気候区の形成に関する基礎知識を習得できる。
31	都市環境科学研究科	S0764	生態環境学特論	後期	沼田 真也	—	This lecture will focus on biological issues of natural environment in Japan and the rest of world; environmental degradation, major threats to biodiversity, and contemporary strategies for biodiversity conservation. Discussion session will be prepared to understand environmental and biological environmental issues in the world.	To understand environmental issues in Japan and elsewhere To understand biodiversity and ecosystem functioning To understand the important current threats to biodiversity as well as contemporary strategies for biological conservation
32	都市環境科学研究科	S0765	生物資源学特論	後期	大澤 剛士	—	Biological resources are derived from several ecosystems. We often call these as Ecosystem Services. To use Ecosystem Service sustainably, we should understand the background mechanisms how to occur these, and should consider how to use, how to maintain these resources. This lecture will learn the basic idea towards sustainable use of biological resources based on understanding of the ecosystem especially focusing ecology and biodiversity sciences.	Students are expected to obtain a basic knowledge of both Ecology and Biodiversity sciences, and expected to understand on the role of Ecology in the sustainable resource management. Also, this lecture took some workshop and discussion time to improve the scientific thought.

No.	学部・研究科等	授業番号	授業科目	学期	担当教員	科目ナンバリング	授業方針・テーマ	習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標
33	都市環境科学研究科	S0780	自然環境マネジメント 野外実習	夏季 集中	仁平 尊明、沼田 真也、大澤 剛士	—	大都市近郊の山間地・丘陵等の緑地(里山や低山)及び近隣の緑地への巡検を通じ、エコツーリズムの現状と課題や、地域の生物多様性保全について、各自の問題意識から考察を深めてもらうことを目的とする。	この野外実習では、受講者に現地調査の経験を積んでもらうとともに、エコツーリズムおよび生物多様性保全の観点から、大都市近郊における緑地等の現状と課題を考えることができるようになることをめざす。
34	都市環境科学研究科	S0798	都市環境経済学特論	前期	朝日 ちさと	—	気候変動やネイチャーポジティブのグローバル課題、また人口減少・技術革新・災害リスク等による社会経済環境の変化のなかで、都市・地域を持続可能性にする政策を実施するために、経済学の観点で資源配分への影響を分析・評価する必要があります。 本講義では、都市・地域・環境経済学の理論と分析事例を学ぶことにより、政策介入の経済学的分析の考え方を身につけます。	以下を習得します。 ① 都市経済・地域経済・環境経済に関する理論 ② ①を応用した政策の分析・評価の事例研究(地域経済分析／費用便益分析／環境の経済的評価等)
35	都市環境科学研究科	S0799	都市環境経済学演習	後期	朝日 ちさと	—	気候変動やネイチャーポジティブのグローバル課題、また人口減少・技術革新・災害リスク等による社会経済環境の変化のなかで、都市・地域を持続可能性にする政策を実施するために、経済学の観点で資源配分への影響を分析・評価する必要があります。 本講義では、都市環境経済学特論で習得した都市経済・地域経済・環境経済に関する理論を用いて、受講者自らが設定したテーマについて経済学的な分析を行います。その前提として、EBPM(根拠を重視した政策形成)のための因果推論を扱います。	はじめに①について学び、その後、受講者のテーマに応じて②または③を習得します。 ① 因果推論の理論・手法 ② 都市・地域・環境に関する分析 ③ 政策の効果に関する実証分析(地域経済分析／費用便益分析／環境の経済的評価等)
36	都市環境科学研究科	S0805	自治体環境行政法特論	前期	奥 真美	—	自治体環境行政に係る法と体系について確認し、多様な取組み事例を踏まえつつ、地域環境の保全・創造はもとより、地球環境の保全も含めた環境行政に自治体が行き組んでいくことに関する意義と重要性を認識する。	自治体が環境行政に取り組むことに関する法的根拠と意義、自治体による条例や計画等の整備状況、自治体の権限の範囲と限界、自治体レベルで活用されてきた各種の環境政策手法、個別の環境分野における取組み等について、具体的な事例をとおして理解する。その際、市民・事業者といったさまざまなステークホルダーとの関係性にも留意しつつ政策実現を図っていくことの重要性についても学ぶ。
37	都市環境科学研究科	S0382	地理環境科学特論Ⅲ	冬季 集中	吉田 圭一郎	UGG-272-1:都市環境学部専門教育科目	多様な自然環境の理解を深めるためには、系統地理学としての自然地理学にとどまらない統合的なアプローチが必要です。本講義では、人間活動や環境変動が地域の植生に与える影響に着目し、乾燥地や高山、日本の山間地域等の具体的な事例をもとにしながら、様々な要因によって成り立つ自然環境について考えます。	①自然環境を読み解く力を養い、景観の形成要因や人間活動との関わり等について理解できるようになること ②砂漠化や自然資源の過剰利用・過少利用といった環境に関わる課題を、自然科学の観点だけでなく人文・社会科学の観点からも理解し、その解決策等について統合的に考察できるようになること ③自然環境に関わるトピックやテーマに関して、自らの専門性や意見をもとに議論できること
38	システムデザイン研究科	T0013	システムデザイン特論Ⅳ	前期	於保 茂 *	—	産業・企業には興亡がある。とりわけ自動車・電機は我が国を代表する産業であるが、大きく変貌しつつある。講師は企業・大学において同産業に多年関わり、その変遷を見てきた。この経験を踏まえて、自動車・電機産業の歴史・現状・将来展望を述べる。また海外駐在で経験した国際ビジネス、グローバルな技術・人材、米国インターンの実情についても触れる。各回完結した技術の話題を軸とし、技術だけでは解決できない国際化・組織論・人材論についても言及する。自動車・電機は産業の具体例であり、伝えたいことは変わりゆく社会・産業の中で、技術者としてどう生きていくかである。他の産業を目指す学生にも将来を考える上で有益な内容となることを目指す。	自動車や産業機械、ロボット等に代表される電子制御機器は日本の優位技術であり、機械、電気電子、計測制御、情報通信、材料デバイス等の様々な学問・技術のシステム化がその特徴である。本授業では産業界における電子制御機器の研究開発事例を紹介し、上記の諸学問が実社会でどのように活用されているかを学ぶ。更にグローバル化するビジネス競争における企業の取り組みと、これからの時代を担う若手人材の役割についても理解を深める。
39	システムデザイン研究科	T0409	ナノ構造・環境調和デバイスト論	前期	菅原 宏治	—	機能物質、特に、ナノ構造を伴う半導体における機能物性の発現機構を解説する。それらの理解を通じて、電子・光・熱電デバイス(素子)の動作原理を学ぶ。更に、環境・エネルギー問題の論点と電子産業の動向を解説する。	1. 機能物質の物理・化学、機能物性の発現機構、電子・光・熱電デバイス(素子)の動作原理を使える知識として体得すること。 2. 環境・エネルギー問題の論点と電子産業の動向を知ること。